

会議録

会議の名称	第3回西東京市放課後子供教室あり方検討委員会
開催日時	令和7年8月19日（火）午前10時から午前11時30分まで
開催場所	田無庁舎1階会議室
出席者	委員：川原委員、伊藤委員、河野委員、渡辺委員、飯海委員、 小松委員、福所委員、山本企画政策係長（門倉委員代理） 事務局：大内地域学習推進課長、鬼頭地域学習推進係長、横川地域学校連携係長、 野田主事、上加世田主事
議題	（1）アンケート調査の結果について （2）他自治体への視察について （3）他自治体における朝の校庭開放の様子について （4）その他
配付資料	資料1-1 西東京市放課後子供教室アンケート調査の実施概要について 資料1-2 放課後子供教室 アンケート 構成・設問設置意義と目的 資料1-3 全18校 アンケート集計結果グラフ 資料1-4 保護者からの自由意見および子どもからの自由意見 資料2 第4回 西東京市放課後子供教室あり方検討委員会について 資料3 三鷹市立小学校の朝の校庭開放
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会議内容

議題（1）アンケート調査の結果について

●座長：放課後子供教室に関するアンケート調査結果について事務局より説明願う。

●事務局より、資料1-1「西東京市放課後子供教室アンケート調査の実施概要について」、資料1-2「放課後子供教室 アンケート 構成・設問設置意義と目的」、資料1-3「全18校 アンケート集計結果グラフ」、資料1-4「保護者からの自由意見および子どもからの自由意見」に沿って説明。

《アンケートについて》

- ・市内の児童及びその保護者に、放課後子供教室の利用状況やニーズ、課題を伺い、利用者の意向や考えを施策に反映するために実施。
- ・対象は西東京市立小学校に在籍する2・4・6学年の児童と、その保護者とし、対象児童数は4,847名。
- ・「すぐーる」にてアンケート調査を配信し、LOGOフォームにて回答いただく。
- ・2週間程度を回答期間とし、1,050名の方から回答いただいた。

●座長：アンケート調査の結果を受け、気になる点が3点ある。1点は学校別のデータについてである。全校偏りなく回答いただいているので、エリア別に分析すると、優先的に進めていくエリアの方向性が見えてくる可能性がある。

2点目は、学年別のデータについてである。平日と土日祝日の利用ニーズについては、学年による影響がなく平日のニーズが高い。平日に安定して開放することに対するニーズが高いということを示すデータではないかと考えられる。

3点目は利用しない理由についてである。2年生は学童クラブに通所していることを理由に挙げている割合が多く、4年生以上は習い事や家という他に過ごす場所があることが挙げられている。塾等の影響があるのではないか。放課後子供教室が分からないという意見もある。学年が高くなるにつれ、認知している児童が増えているが、低学年への周知が大切なのではないだろうか。また、参加したいプログラムがないことを理由に挙げられていることについては、学年に応じたプログラムが大切なのではないだろうか。

自由意見についても気になった点は2点ある。1点目はボール遊びをしたいというニーズについてである。市内ではボールを使用できる公園は少ないということもあり、校庭開放や体育館開放は大きな意味を持っていると感じる。

2点目はランドセル登所についてニーズが多い点である。

今回のアンケート結果を受けまして、委員の皆様それぞれの立場からのご意見や、疑問等ありましたらお願いしたい。

●委員 : あり方を考える上で、全校一斉に進めていくのか。エリアごとに検討していくのか

○事務局 : 平準的な形を目指していきたいというところは目指す目標である。このようなアンケート結果を通して、エリアごとの分析を行った上で、地域の協力者の方等からの聞き取りをしながら、順序立てて検討していきたい。

●委員 : 子どもたちからの自由意見を見ると、校庭開放の安定的な開放が子供たちにとって最初に進めてほしいことなのではないだろうか。安全に自由に過ごせる場所があることが大切であると考えます。

また、4年生は学校が終了してから習い事が始まるまでの間の時間が短いため、学童を退所していく児童もいる。その隙間の時間を埋めるためにランドセルを背負ったまま校庭開放を利用できれば、学童クラブではなく、校庭開放を利用したい児童もいるのではないかと考える。

●副座長 : 学童に通所している学年について、1年生2年生はそこまで差がない。3年は1年生2年生のおおよそ半分くらい、4年生は学年に数人くらいが学童に通所している。学年が上がるに連れて、習い事等が増え、友達と遊びたいが帰宅してからは時間がないので、学校帰りにそのまま校庭開放に寄り、友達と遊びたいというニーズはあるようだ。それが毎日利用できれば、よりニーズが高まるのではないかと。

●委員 : アンケート結果について放課後子供教室を知っているかの設問について、児童の回答と保護者の回答を分析してみた。知らないと回答した割合が、2年生は保護者が7%、児童が17%、4年生は保護者が5%、児童が8%、6年生は保護者が5%、児童は7%である。児童の方が保護者より放課後子供教室を知らないという割合が高い。利用率を上げる一つの方法として、児童本人への広報の仕方を検討することも大切である。

●委員 : 西東京市の公園では、ボール遊びができるところが非常に少ないのが現状であるので、ますます校庭開放の意義が高まる。
暑い日や雨の日に備えて、体育館開放など、校庭以外の屋内開放のニーズが高まってい

る。第2回の会議で話が挙がったが、中原小学校は、隣にひばりが丘児童センターがあるので、校庭開放をしても児童の参加が少ない。このような地域性があるので、平準化を目指しつつ、地域ごとに見るべきポイントがあると考ええる。

- 委員 : 児童館が近くにない学校では、放課後子供教室の充実のニーズが高いのではないだろうか。
- 委員 : 熱中症対策の視点で考えると、暑い中、一旦帰宅した後に再度体育館開放には来ないだろうと考える。暑いからこそ、学校の帰りにそのまま体育館に寄り、少し体を動かしてから帰宅できると利用率が高まると考える。
ボールが使用できる市内の公園の利用ニーズは高いようである。
- 委員 : ボール遊びができる公園では、高学年の児童や中学生が利用していることが多いため、ボール遊びをしたい低学年の児童が、校庭開放に参加していることがある。アンケート調査結果から、平日5日間実施のニーズが高いことが分かった。一方で、運営側の視点から述べると、週5日実施は運営側の負担的にできないと考える。
また、熱中症アラートや雨などによる急な中止を発信できるツールがあると良い。
- 座長 : 持続可能な平日の開催について、検討が必要であると考ええる。
また、学校が終わり、家に帰らずそのまま放課後子供教室に参加できる体制を整えることに関しても、課題が多くあるのだろうと考える。
- 副座長 : 家に帰らずそのまま放課後子供教室に参加を可能とする体制の課題として、低学年と高学年の授業の終了時刻が異なることにより、低学年は下校時にそのまま放課後子供教室に寄りたくても、高学年は授業で校庭等を使用しているというスペースの課題がある。学校のクラス数の兼ね合いもあるが、どの学校にも該当する課題であると考ええる。
- 委員 : 教室数に余裕がある学校であれば、高学年が授業終わるまで、宿題などをして待つこともできると思うが、教室数に余裕がなければ難しいと考える。
- 委員 : 学年ごとに授業の終了時刻が異なることについて、4年生以降はそのまま校庭開放に来ることができ、3年生以下は一度帰宅してから来るなどのように、学年別に対応を分けている学校もある。
- 委員 : 放課後子供教室に関して一定程度ニーズはある一方で、放課後子供教室のことがよく分からないと回答している児童が多いことも考えると、情報が必要な人に届いていないという課題がある。放課後子供教室のあり方を検討する上では、周知方法も一緒に検討する必要があると考える。市の財政状況からも、どのエリアを優先的に進めていくのかを明確にしていく必要がある。

- 座長 : 平日の校庭開放や体育館開放などの運動できる場所のニーズは高い一方で、いかに持続可能性のある形で進めていくかがポイントになる。
また、エリア別の分析を行い、優先的に取り組むべきエリアを明確にすることが大切であるという意見をいただいた。

議題（２）他自治体への視察について

- 座長 : 他自治体への視察について事務局より説明願う。

●事務局より資料２に沿って説明

- ・今後の本市の事業実施における参考のため、他自治体の視察を検討している。
- ・視察先としては調布市を考えており、調布市を選んだ理由としては以下２点
 - １．自治体として基礎的な点、児童数や学校数に近いものがあるという点を前提とし、地域協力者の状況により学校間で実施頻度や内容に差があったという当市と似た背景があり、その上で今後もしばらく建て替えを予定していない学校で施設に制約があるなか、放課後の居場所の確保を進めてきた点。
 - ２．地域協力者の方との調整を図り、民間活力の導入も取り入れながら、新たな仕組みで平準的な開催を実現したこと。

上記２点から、本市の抱えている課題や、あり方を検討する上で参考になるのではないかと考え、調布市を選ばせていただいた。

- 座長 : 視察に関する意見や、調布市への質問等があれば、ご発言願いたい。

- 座長 : 持続可能な開催を目指していくために、何が大変だったかを聞きたい。こちらが想定していない苦労があったのではないか。

- 委員 : 学童クラブと放課後子供教室をどのように住み分けしているのか、どのように違いを出しているのかを聞きたい。

- 委員 : 調布市にて、放課後子供教室を首長部局の中で実施している考え方を聞きたい。

- 委員 : 参加人数がおおよそ50人というなかで、見守りが原則３人であるが、３人体制で見守りができているのか。特別支援教室からきている場合は４人体制とあるが、特別支援教室からは何名の参加があるかを聞きたい。

- 委員 : 全小学校に各１教室を放課後子供教室として使用しており、平均50名の参加とあるが、どの程度の広さの教室を使用しているのか。実施時間が放課後から午後５時までとあるが、学年によって放課後の始まる時間が異なる点について、どのような対応をしているのか。場所が異なる、時間が異なる、見守りの人員が異なるなど、学年による違いがあれば知りたい。

- 委員 : 地域の方の関わり方について知りたい。民間活力の導入により、委託先のみが放課後子供教室も運営に関わっているのか、地域の方々も関わっているのか。
- 副座長 : 児童の具合が悪くなったときや怪我の対応について、どのように対応しているのか。
- 座長 : 頂いた質問は事務局にてまとめていただきたい。

議題（２）他自治体への視察について

●事務局より資料３に沿って説明

三鷹市で行われている朝の校庭開放の視察について報告

《視察日時》 令和７年７月２日（水）

《視察場所》 三鷹中央学園三鷹市立第三小学校

《三鷹市朝の校庭開放の目的》

- ① 働き世帯の増加などを背景に保護者の出勤時間が子供の登校時間よりも早くなってしまう問題を解決するために、子供たちの居場所の確保、保護者の負担軽減に努めること
- ② 朝から体を動かすことができる環境を整備し、子供たちの体力向上を図ること。

《開放日時》 長期休業期間を除く平日の午前７時30分から８時30分の１時間

《対象校》 三鷹市立小学校全15校

《開放場所》 校庭（雨天時は体育館など）

《管理運営》

シルバー人材センターに委託し、各校２名体制の守りで、校庭開放の開門や見守りを行う。

校庭内で自由に時間を過ごすことができる。登録制ではないため、当日の出欠連絡不要で参加できる仕組みである。

《視察当日の様子》

午前７時10分にシルバー人材センターの職員が出勤し、開放準備を行う。午前７時30分から朝の校庭開放が開始となるが、開始時間よりも早く来校した児童についても受け入れている。校庭中央付近にある遊具入れにはボールや縄跳び等が複数用意されており、その中から自由に取り出して遊ぶことができる。開始時には15名程度の参加があり、ドッジボールや鬼ごっこをし始めていた。その後徐々に児童の来校が増え、午前８時頃に100名程度の参加が見られた。体を動かして遊ぶ児童も多くいたが、昇降口の前に集まり、友達同士で話をする児童も多数見られた。午前８時10分になるとシルバー人材センターの職員の笛の合図により、遊具の片づけをし始めて、朝の校庭開放が終了となる。

議題（３）その他

○事務局　：今後のスケジュールについて、次回は令和７年９月29日（月）に調布市への視察を行う。
詳細については、また後日ご連絡させていただく。

次回会議（視察）

日時　令和７年９月29日（月）